

大妻同窓会新潟会報

発行日令和3年9月10日 第11号
大妻同窓会新潟(大妻女子大学新潟県同窓会)

発行責任者 渡邊 美栄子 (代表)

ご挨拶

大妻同窓会新潟代表 渡邊美栄子

初秋を迎え、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。本年も相変わらず感染症蔓延の只中、政局や国際情勢もめまぐるしく変化し、依然として不透明な状況となっており、只々国内外の混乱の収束と平和を望むばかりです。当同窓会でも定期総会は書面となり昨年に引き続き非常に寂しい一年となり、また皆様とお会いできる時を楽しみにお待ちしております。このように状況のなか私達にできることは、自分ができるところを淡々とこなして行く。そして、人のご縁を大切に。言い換え

れば、大妻コタカ先生が教えてくれた「手まめ足まめ」「感謝」をそれぞれの立場で実行する、つまり自分の持ち場で全力を尽くす、ということになりましょうか。私個人としては至らないながらも、どのようにして人としてより善く生きるかということに心をこめて進んでいけたらと思っております。なかなかすっきりとしない世情ではありますが、明るく前を向いて行きたいものです。また本同窓会も心配なく皆様と集い語らうことができる状況となりましたら、いつでも参加できる気軽でぬくもりのある場所を皆様に提供することが出来たら、これほど嬉しいことはありません。その日を心よりお待ちしつつ、皆様のご健康とご多幸を深くお祈りしております。

第39回総会開催について

例年であれば、会場をお借りして開催する総会ですが、本年も諸般の事情を考慮して対面による開催を中止いたしましたので別紙のご報告をもって開催、ご承認をお願いできればと思います。勿論ご意見は書面にいつでもお受けしておりますので宜しく願い申し上げます。

ビデオ「女子教育の先駆者 大妻コタカ」について

令和2年10月に大妻女子大学博物館様、大妻コタカ・大妻良馬研究所様より大妻コタカ先生に関するビデオが地方同窓会宛てに配布されました。今後総会などで皆様に観て頂く機会を設けたいと思っておりますが、2本のビデオのうち前回ご紹介できなかったもう1本を写真にしたものと、ナレーションを文章にしてご紹介いたします。



女子教育の先駆者
大妻コタカ



1. はじめに

この建物(生家)は、東京・千代田区のキャンパスを拠点とする総合大学、高校、中学を持つ大妻学院を110数年前に創設した「女子教育の先駆者」大妻コタカさんの生家です。

コタカさんが生まれ育った集落、久恵の集落は、生家の目前に広がるダム湖の底に沈んでいます。



久恵の集落は昭和34年に完成した三川ダム建築によりダム湖の底に沈みました。しかし、コタカさんの生家は築数百年前の珍しい手斧作りの建物であったので、現在の場所に移築されました。

生家は、コタカさんの実家である熊田家が長く管理してきましたが、平成29年に熊田家から寄贈を受けて、大妻学院の同窓会組織である一般財団法人大妻コタカ記念会が管理をしています。

生家ではお食事処「久恵風穴の里 ごもくめし」が営まれ、お食事を召上がりながら、コタカさんの生家を見学していただけます。

2. おいたち

コタカさんは、明治17年、農家である熊田家の6人きょうだいの末っ子として生まれました。

コタカさんは、3歳の時にお父さんが亡くなり、お母さんに育てられました。コタカさんのお母さんは6人きょうだいを女手ひとつで育て、大変な苦勞だったと思います。

コタカさんのお母さんのぐせは「手まめ、足まめ、耳まめ、目まめ、口まめだけは気をつけよ」でした。「まめ」とは、達者なことで、

手足、耳や目の達者なのは良いが、口達者だけは気をつけなさいという注意です。コタカさんはこのお母さんの教えを自戒としました。その母親もコタカさんが14歳の時に無くなります。



ダム湖に沈んだ久恵の集落

3. 辺境地ゆえの苦勞

小学校一年になったコタカさんは、約3.3キロ離れた学校までの淋しく長い山道を通うのが嫌で、学校嫌いで勉強ができませんでした。5歳上の兄が勉強をみてくれるようになり、勉強の楽しさを知り、それ以来勉強が好きになり、成績もよくなりました。この時の体験により、学校開設後は、一斉授業の弊害を避け、なるべく少人数の生徒を受け持つようにつとめました。そして、この大妻の教授法は好評となり学校は発展しました。

4. コタカさんの学び

高等小学校卒業後は、世羅高校の前身である多田道子裁縫所で学び、地元の尋常小学校の代用教員になりましたが、もっと勉強がしたい、できれば数学の勉強をしたいと、18歳の時に上京します。上京後、数学の勉強は叶わず、上野の叔父さんの家に厄介になり、家の手伝い、アルバイトをしながら、裁縫学校・教員養成所へ苦学を続けます。現在の横浜国立大学を卒業し小学校の先生になり、裁縫と手芸の研究も続けました。



5. 結婚そして学校創設

24歳の時に、宮内省に勤める元軍人の大妻良馬さんと結婚をし、小学校を退職します。官舎の官舎での生活の中、子どもがなく、家で袋物や埴細工などの手芸をしていると、近所の娘さん達が集まって来て、教えてほしいと請われました。コタカさんの手芸はセンスが良く、目を引くもので、新しい手芸だったのです。小さな家は若い娘さん達でにぎわうようになり、明治41年に私塾がスタートしました。大正5年に東京の三越呉服店(現在の三越デパート)での展覧会に手芸品の出品を勧められ、出品すると評判を呼び、学校認可申請を勧められます。思いがけない話でしたが、夫の良馬さんに「やってみたら」と背中を押され、大正5年に大妻技芸伝習所を創設します。大妻女子大学のスタートです。その後、当時の女子の就学意欲の高まりと技芸教育への求めに応じ、学校は発展していきました。



6. 教育の振興に尽力した姿

コタカさんは「誰でも、いつからでも学べるように」と門戸を広げ、さまざまな工夫をして教育に尽力しました。

■講習会 * 女性が高等教育を受けることが容易ではなかった時代でしたので、地方の人のために授業の無い時は『講習会』を開催し、教材の通信販売を行い、好評を得ました。

■講義録 * 『講義録』に基づく通信教育にいち早く取り組みました。

■日本初 女子の『夜学校』の開設 * 大正14年には日本で初の文部大臣認可の女子の夜学校を開設し、卒業後は高等女学校の資格が得られると働く女性に歓迎されました。

■卒業生に教員資格 * 昭和3年には、技芸学校の卒業生に無試験検定が認可され、教員検定試験を受けずに卒業後は先生の資格が得られるようになり、社会に活躍する女性を輩出しました。

■ラジオ放送で講義 * 大正のラジオ放送開始時から昭和にかけて週に一回、裁縫、手芸、作法その他主婦や若い人たちの心得ともいえるものをラジオ放送で行いました。

■雑誌に執筆 * 大正時代から有名な婦人雑誌、少女、少年、幼年倶楽部などに礼儀作法、家事、裁縫手芸などについて執筆しました。

■新聞の家庭欄に執筆 * 新聞の家庭欄に裁縫手芸の記事が掲載され、婦人相談の欄を担当しコタカさんの名前、大妻学院が世間に知られて行きました。

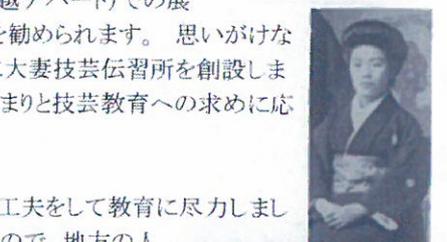
■立身出世伝 * 辺境地から、東京の真ん中に明治・大正の女子教育勃興期に女子校を創設したコタカさんの立身出世伝は、婦人雑誌や少年少女向けの本で紹介されました。



無試験検定認可を喜ぶ生徒たち



新聞の家庭欄に執筆



ラジオ放送中のコタカさん



7. 苦難を乗り越える人生

■関東大震災 ・全財産を投じて建てた校舎は、建築翌年の大正12年に発生した関東大震災で、全焼し、財産を失います。しかし被災の3日後には、学校の再建に立ち上がり、次の年には、以前より大きな校舎を再建します。



■夫の急逝 ＊校舎再建の喜びから5年後、夫の良馬さんが急逝します。これまで自分を支えてくれた夫に先立たれ悲しみにうち沈みますが、学校に2000人の教え子が待っていると悲しみに負けてはならないと奮い立ちました。

■教職追放と解除、叙勲の栄 ＊戦後、「多くの学校の校長でありながら、あらゆる婦人団体に相当な役割を持った」ために教職追放となり5年の間苦難に堪えます。昭和26年に追放が解除され、大妻学院理事長・学長・校長に復帰し、女性教育者としての功績に対し藍綬褒章、女性初の生存者受勲である勲三等宝冠章を受章しました。



教職追放と解除、叙勲の栄



昭和29年藍綬褒章記念 皇居にて。右は昭和天皇。



8. おわりに

昭和45年(1979年)コタカさんは、夫と共に信念とした報恩感謝の理念を掲げ、良い妻、賢い母、役に立つ社会人の教育一筋に、ひたすら歩み続けた人生を閉じました。85歳でした。

現在大妻学院は2018年に創立110周年を迎え、4中学、4高校、1短大5学部ある大学、大学院を擁し、学生生徒数12,140余名を有し、コタカさんの精神を受け継いで「社会に貢献する自立した女性を輩出する」女子教育機関として邁進しています。

いかがでしたでしょうか。改めてコタカ先生の波瀾万丈の中でも志を決して捨てずに立ち上がり無私な心で他者に尽くした人生に感銘を受け、卒業生としてますます誇りが持てました。提供して下さった大妻女子大学博物館、大妻コタカ・良馬研究所の皆様方に心より感謝申し上げます。(このページの右下部分に載せたQRコードを読み取ることにより、YouTubeの視聴が出来ます。どうぞご利用ください。)

一般財団法人大妻コタカ記念会のHP、FBもご覧ください

<https://www.otsuma-kotaka.or.jp>

(Facebook: @Otsuma.kotaka.kinenkai)

大妻コタカ記念会は、学校法人大妻学院の設置する学校の卒業生及び大学生・高等学校生徒で構成される団体です。明治41年大妻学院創立の後、創立者の大妻コタカ先生とご夫君の大妻良馬先生は大正10年に「大妻同窓会」を設立し、コタカ先生は終生、会長として全国の多くの同窓生の、いわば生涯学習のために、多くの事業を行ってこられました。コタカ先生ご逝去の後、「大妻同窓会」は大妻コタカ先生のお名前を永久に残し、ご遺志を継承すべく、「財団法人大妻コタカ記念会」の設立を文部省に申請しました。大妻コタカ記念会が普通の同窓会の事業の他に、社会の福祉や文化の発展に役立つ公益のための活動ができるものと認められ、昭和49年5月にその認可を得たのです。大妻コタカ記念会は、同窓生相互の親睦をもとに、公益法人としての活動に尽力しております。

【会費の納入について】

卒業生は会費を納めていただく事により、大妻コタカ記念会の会員になります。記念会から会報や会誌が送られてこなくなった方は会費が切れている方です。下記の方法で会費をお納めください。

●年会費は2000円です。何年分でも納入できます。

●会費の切れていた期間はさかのぼって納めなくても大丈夫です。納めてくださった年から有効となります。

●会費の納入方法はこちらです。

郵便振替 郵便局備え付けの払込取扱票で 口座番号…00170-8-48936 加入者名…一般財団法人 大妻コタカ記念会 通信欄に下記の事項を記入してください。

現氏名(ふりがな)改姓の場合は旧姓も

卒業の学科、専攻、クラス

卒業年(卒業年度ではなく〇年〇月卒業と)

生年月日(同姓同名が多いため)

現住所、電話番号、eメールアドレス

*今回は、総会資料を同時送付しておりますため、大妻同窓会新潟の事業報告、会計報告は省略させていただきますので別紙総会資料をご覧ください。

大妻同窓会新潟会費納入のお願い

◎1年分の会費 1,000円 入会金 1,000円

入会を希望される方・お忘れの方は、下記に振り込んでくださいますようお願いいたします。(振込み用紙同封いたしましたのでお使いください)

加入者名: 大妻同窓会新潟

郵便振替番号:

記入事項: ①姓名(旧姓も) ②住所 ③電話番号 ④卒業年・学部・科を記入してください。

*なお、大妻コタカ記念会様からの地方同窓会への援助金制度があり新潟

同窓会も毎年援助金を頂いております。この条件として、定額3万円に加え、大妻コタカ記念会様の会員であり、かつ大妻同窓会新潟の会員である方の人数に対してひとり500円の援助金が追加されるため、よろしければ大妻コタカ記念会様への入会もお願いできれば尚更ありがたく存じます。

第39回(令和3年度)定期総会のご案内

今回は書面にて決議をお願いしております。資料をご覧ください。

編集後記 第11号を発行することができました。これもひとえにいつもご協力くださる会員の皆様の深い理解

の賜物と心より感謝申し上げます。今回も引き続きコタカ先生の人生をたどってみました。広く皆様の原稿など、いつでもお待ちしております。お気軽に下記まで、お送りください。お手紙、メール、SMSなど一言でも、いつでもお待ちしております。時節柄どうかご自愛くださいませ。